

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

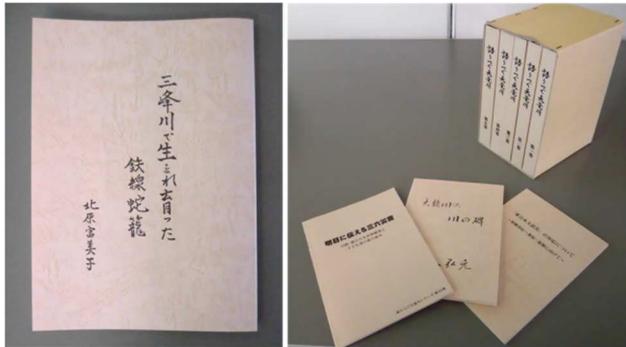
土木広報活動または作品名：語りつぐ天竜川

広報活動または作品の概要

天竜川上流河川事務所では、天竜川のより良い川づくりを進めるにあたり、流域における災害・環境・歴史・文化などから地域の知見や経験を収集し、広く地域共有の知識とすることで、天竜川流域で行われている人の暮らしを考え守る土木の魅力を伝えることを目的として「語りつぐ天竜川」を発行しています。

「語りつぐ天竜川」は、講演記録や一般の方・有識者などに執筆のご協力をいただき発行している A5 サイズの冊子であり、昭和 61 年より機会があるごとに発行し、バックナンバー全巻の PDF データを事務所のホームページでも公開しています。

シリーズの最新刊（63 巻）である「三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠」の発行（平成 29 年 12 月）にあたっては、職員自らが取材から編集、イラスト作成を手がけるなど新たな試みも行っています。



左：最新刊（63 巻）

「三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠」

平成 29 年 12 月発行

右：「語りつぐ天竜川」シリーズ

広報活動の効果

「語りつぐ天竜川シリーズ」は毎号、地元の図書館・資料館・学校等を中心に郵送し、残部は希望者に無料配布を行っています。

新刊発行については、新聞や地元のフリーペーパー等のメディアにも取り上げられ、全国各地から配布希望の連絡が入るなど、「語りつぐ天竜川」は、天竜川に対する親しみや理解を深めていただくことに役立っています。いまでは、これまで発行した全巻をコレクションし最新刊を心待ちにしている熱狂的なファンの方もおり、タイトルのとおり土木の力と魅力を「後世に語りつぐ」有効な広報ツールとなっていると思います。

また、最新刊の「三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠」については、暴れ三峰川の水害から人々を守ってきた水防技術の誕生秘話を本編の他に「ものがたり編」と「ワンコインでつくる中聖牛モデル」を加えてわかりやすくまとめているため、教育機関における防災教育での活用も期待しているところです。

附属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）